

平成26年度 事業計画

昨年は「伊勢神宮式年遷宮」を契機とした「伊勢から熊野」への誘客をはじめ、「和歌山デスティネーションキャンペーン」（以下「わかやま DC」）のプレキャンペーンの実施など、地域では、各々の観光資源を更に磨き、今年度の「わかやま DC」に繋がる観光施策を実施しました。

今年度は世界遺産登録10周年の関連事業や、「わかやま DC」として県下の市町村、観光協会等の関連事業者が一丸となって、誘客施策を企画し、継続的な観光資源の開発に取り組み、平成27年度の「高野山開創1200年」、「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」開催における誘客へと施策を展開します。

近年の観光における傾向として、団体旅行から個人・グループ旅行へ、また、体験観光をはじめとする着地型観光へと、価値観やライフスタイルの変化に伴い、観光のあり方も多様化しています。観光資源のトレンドとして、伝統文化、歴史的街並み、自然、地場産業や、農山漁村での体験を通じて地元の方々との交流や農業・漁業体験等が観光資源として注目されつつあり、そのような社会のニーズを迅速に反映させた施策が求められています。

本県では、観光立県実現のための基本理念と観光振興に関する基本的な事項などを定めた「和歌山県観光立県推進条例」に基づき、観光関係者、行政、そして県民の総参加による観光振興への取り組みを進めています。観光は、旅行業、運輸業や宿泊業及び飲食業などの直接に関連する産業だけでなく、農林水産業や商工業など多くの産業へ幅広く効果を及ぼす総合的な産業であり、その振興は、地域経済の活性化と県民生活の向上に寄与することが期待されています。

観光連盟では、観光の果たす社会的役割を踏まえ、県、市町村、観光事業者が協働して取り組む観光振興計画「和歌山県観光振興実施行動計画＝アクションプログラム2014＝」を県と連携して策定し、「和歌山を売り出す」「和歌山へ招く」「和歌山でもてなす」に、さらに、「わかやまリーキャンペーンで売り出す、招く、もてなす」を施策の柱とし、平成27年の「高野山開創1200年」に向けた具体的な取り組みを推進し、和歌山の魅力発信、誘客に努めて参ります。

「和歌山を売り出す」では、世界遺産登録10周年に関連した様々なイベントの開催や、熊野古道健康トレッキングの推進、女性向け誘客施策の充実に加え、わかやまDCにおける取組みを中心に高野山の認知度を深め、「高野山開創1200年」に関連する催事や企画と結びつけた情報発信により、平成27年の高野山への誘客を目指します。

また、「和歌山へ招く」では、教育旅行などのターゲットを絞った誘客、メディアによる情報発信、インバウンドの促進などにより誘客を図って参ります。さらに、観光客の受入れ体制の充実として、「和歌山でもてなす」では、語り部の研修などによる人材育成に努め、体験観光事業者の資質やおもてなしの向上を図ります。

これらの施策について、マーケットニーズを活かした臨機な対応により、観光連盟は、県、市町村、観光事業者と協働し、本県の観光振興を図るとともに、和歌山デスティネーションキャンペーン推進協議会の中核として、観光施策を展開して参ります。

1 和歌山を売り出す (18,877 千円)

(1) 観光地魅力発信 (15,867 千円)

- 観光地のPRとして、ロケ誘致や各種イベントでの情報発信を推進し、観光客を誘致する。
- 「わかやまフィルムコミッション」による地域と連携した映画等のロケ誘致 20件
 - 観光キャンペーンスタッフ「きのくにフレンズ」によるPR活動の実施 活動150日
 - 観光連盟HPの運営

(2) 「わかやま紀州館」における和歌山県産品宣伝 (3,010 千円) 出前紀州館12件

和歌山県から中小企業団体中央会に対し委託している「わかやま紀州館」での和歌山県産品展示運営の管理及び首都圏における和歌山県産品の調査を行う。

2 和歌山へ招く (150,545 千円)

(1) 観光プロモーション (37,532 千円)

各種メディアを活用した情報発信、集客力のある多彩な展示会等への出展による観光PR、旅行商品の造成への支援など、効率的・効果的な観光プロモーション活動を展開する。

- テレビや新聞、雑誌など各種メディアを活用した情報発信 30媒体
- 集客力のある展示会・イベント等への出展を通じた観光PR 5回
- 新しい観光素材を組み入れた旅行商品の販売促進のための下見支援 10件

(2) 観光情報誌作成 (19,597 千円) 観光情報誌4回 400,000部作成

県内の様々な観光情報を掲載した情報誌を作成し、マスコミ、旅行代理店、輸送機関等のほかエンドユーザーへ広く提供する。

(3) 教育旅行誘致推進 (3,965 千円)

修学旅行来県校の増加を図るための誘致活動を積極的に展開するとともに、必要な受入体制整備を図る。

- 旅行会社及び学校を対象とした現地視察の支援 視察15回

(4) わかやま観光リレーキャンペーン (5,000 千円)

「高野山開創1200年」に結びつく誘客のためのノベルティを作成する。

(5) 戦略的首都圏対策 (42,420 千円)

情報発信の一大拠点である首都圏を対象に、多種多様な手段を講じて多面的に高野熊野をはじめとする和歌山の魅力を発信し、和歌山県観光の認知度を向上させると共に、首都圏をはじめ全国から新たな観光客の誘客を図っていく。

- 「いよいよ行ってみようキャンペーン」の実施
- メディアを通じた認知度の向上 メディア情報交換会 3回
- 旅行エージェントへの売り込み ファムツアー 10社
- わかやま講座 30講座 受講者 約3,000名

(6) 観光センター運営 (27,082 千円)

- わかやま紀州館の運営
首都圏からの誘客対策、わかやま紀州館広報の展開
旅行エージェント、メディア関係者への対応
- 名古屋観光センターの運営
東海圏からの誘客対策、旅行エージェント・メディア関係者への対応

(7) 国際観光推進 (14,949 千円)

香港、台湾、韓国、中国の東アジア、タイ、シンガポール、マレーシアを含む東南アジア並びにフランス、米国など欧米豪からの外国人観光客の誘致を推進する。

- 海外メディアの取材誘致等による海外への発信 6 件
- 海外エージェントへのセールス、視察(下見)招請による旅行商品造成支援 5 件

3 和歌山でもてなす (4,421 千円)

「ほんまもん体験」プログラムの品質向上及び紀州語り部の資質向上を図り、人材育成に資する。

- 体験事業者・インストラクターの技術力向上のための現地研修会の実施 2カ所
- 紀州語り部の資質の維持・向上のための研修会等を実施 参加者延べ150人

4 コンベンション誘致推進 他 (18,097 千円)

(1) コンベンション誘致推進 (15,205 千円)

全国規模の大会、学会、見本市など(いわゆるコンベンション)を誘致し、宿泊客の確保を通じた観光振興を図る。

- コンベンション主催団体に対する助成金交付 25 件
- 観光パンフレットなどのツール提供 20 件

(2) 和歌山ファンクラブ運営 (1,392 千円)

県内外の方々に和歌山を知っていただき、リピーター化を促進する「和歌山ファンクラブ」を運営する。

(3) 公益社団法人日本観光振興協会、近畿府県観光連盟との広域観光振興を推進 (1,500 千円)

公益社団法人日本観光振興協会及び近畿2府5県と共同事業を実施 観光展3回

5 熊野古道宿泊施設運営 (7,311 千円)

高野・熊野の世界遺産登録効果を持続させるため、首都圏の団塊世代やウォーカーを主な対象に、誘客力強化に向けて整備をした「熊野古道の宿 霧の郷たかはら」を運営する。